



第11次大津市交通安全計画に 基づく進捗について

令和7年度
大津市交通安全対策会議委員会

- 1 第1次大津市交通安全計画の概要
- 2 交通事故の発生状況
- 3 重点的に対応すべき事項
- 4 第1次大津市交通安全計画期間データ分析
 - ①高齢者および子どもの安全確保
 - ②歩行者および自転車の安全確保
 - ③生活に密着した身近な道路および交差点における安全確保
 - ④その他

1 第1次大津市交通安全計画の概要

本計画は、交通安全対策基本法第26条第1項の規定により、大津市交通安全対策会議が滋賀県交通安全計画に基づき策定するもので、大津市における陸上交通の安全に関する総合的かつ長期的な施策の対応を定めたものです。

(1) 計画期間 : 令和3年度から令和7年度まで

(2) 基本理念 : 「交通事故のない大津を目指して」とし、悲惨な死亡事故をなくすため、年間死者数については、指標とせず常にゼロを目指す。

(3) 指標・目標 : 年間重傷者数を60人以下を目標とする

(4) 対策を進める重点事項

【滋賀県と共通の視点】 「高齢者及び子どもの安全確保」など6つの視点

【大津市独自の視点】

①道路の見通しの確保

②交通事故情報の活用と発信

③自転車の安全利用

④歩きスマホの禁止

(5) 主な施策の柱と取組

①道路交通環境の整備

②交通安全思想の普及徹底

③安全運転の確保

④車両の安全性の確保

⑤道路交通秩序の維持

⑥救助・救急活動の充実

⑦被害者支援の充実と推進

⑧情報収集及び調査研究の充実

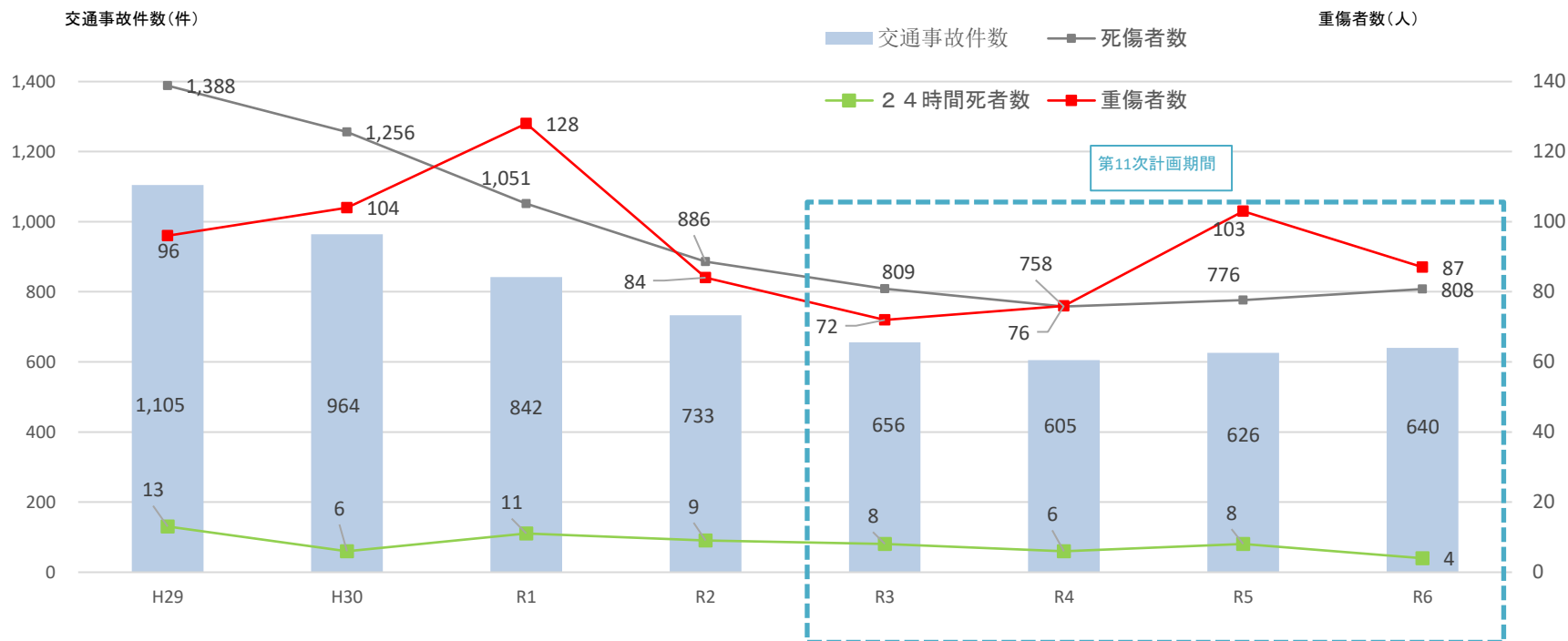
2 交通事故の発生状況

年間事故件数 令和5年 626件 ➡ 令和6年 640件

年間死傷者数 令和5年 776人 ➡ 令和6年 808人

年間死者数 令和5年 8人 ➡ 令和6年 4人

年間重傷者数 令和5年 103人 ➡ 令和6年 87人



2 交通事故の発生状況

- 1 年間の重傷者数は、令和 4 年より増加に転じ、令和 5 年は急増し、令和 6 年は、87 人となり減少しているものの、目標数には達していない。
- 2 年間死者数は、令和 6 年 4 人となり平成29年からの過去最低となったが、依然として年間死傷者数は、増加傾向にある。
- 3 交通事故件数は、平成 29 年から減少傾向にあったが、令和 4 年を底に、令和 5 年より増加傾向にある。

2 交通事故の発生状況

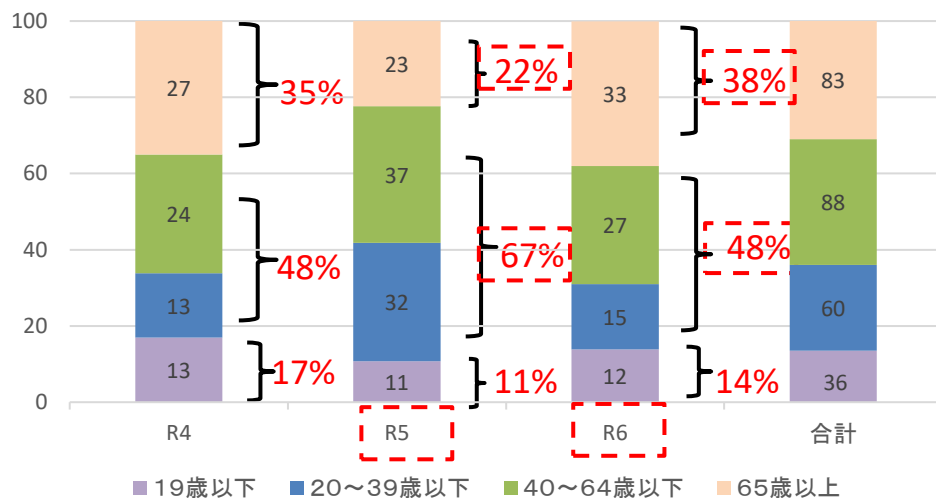
1 市内の年齢層別重傷者数割合の推移

令和5年と比較すると65歳以上の割合が高くなっている。

2 市内の年齢層別死者数割合の推移

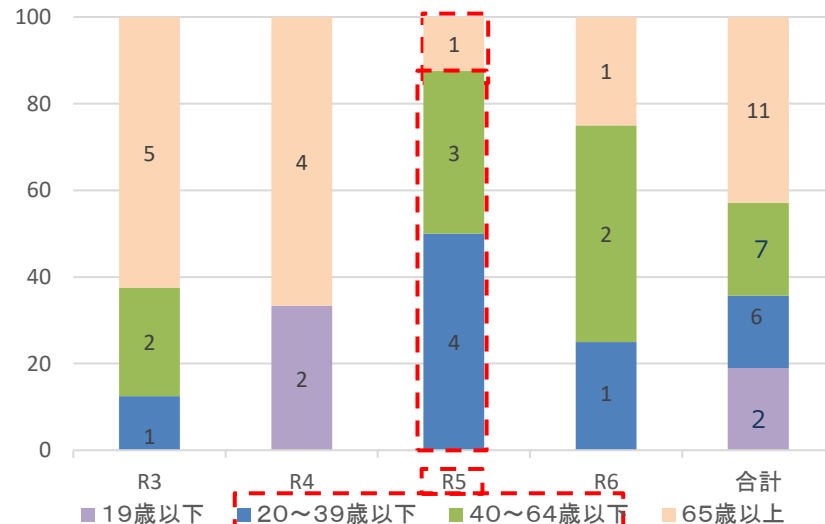
令和5年からは20～64歳の割合が高くなっている。

【市内の年齢層別重傷者数の割合の推移】



※重傷者数は、令和4年からのデータとなります。

【市内の年齢層別死者数割合の推移】



(グラフ内の数値は件数)

3 重点的に対応すべき事項

交通事故による被害を減らすために設定した重点的に対応すべき事項について

- ① 高齢者および子どもの安全確保
- ② 歩行者および自転車の安全確保
- ③ 生活に密着した身近な道路および交差点における安全確保

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

① 高齢者および子どもの安全確保

(1) 高齢者の事故の推移

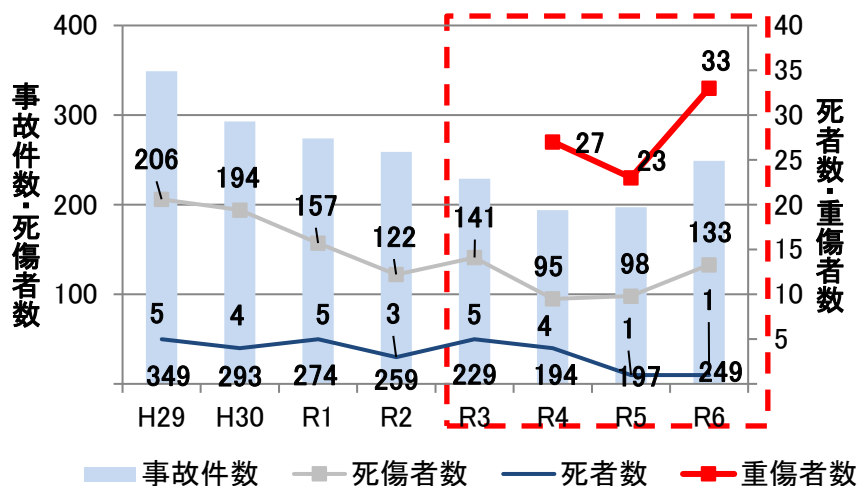
事故件数は、令和4年を底に、令和5年から増加に転じている。

死者数は減少、**重傷者数**は、令和5年に減少したものの、令和6年に急増している。

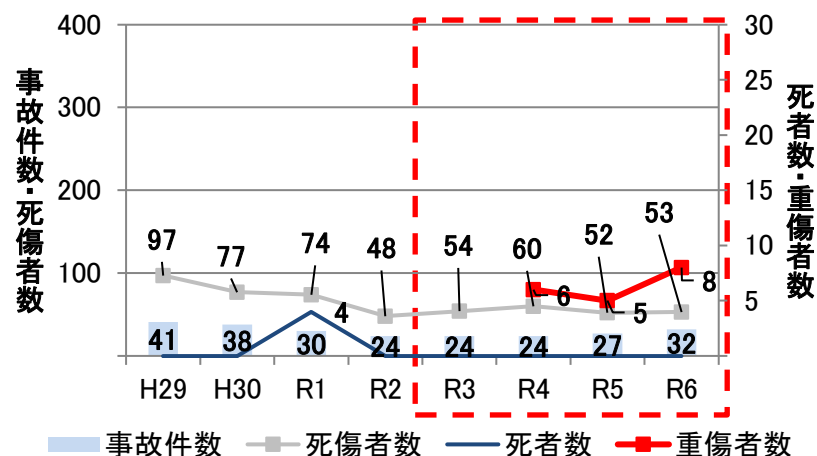
(2) 子どもの事故の推移

死者数はゼロで推移しているが、**事故件数**および**重傷者数**は、令和6年に増加している。

【(1) 高齢者の事故の推移】



【(2) 子どもの事故の推移】



※ 高齢者は65歳以上、子どもは中学生以下をいう。重傷者数は令和4年以降からのデータとなります。

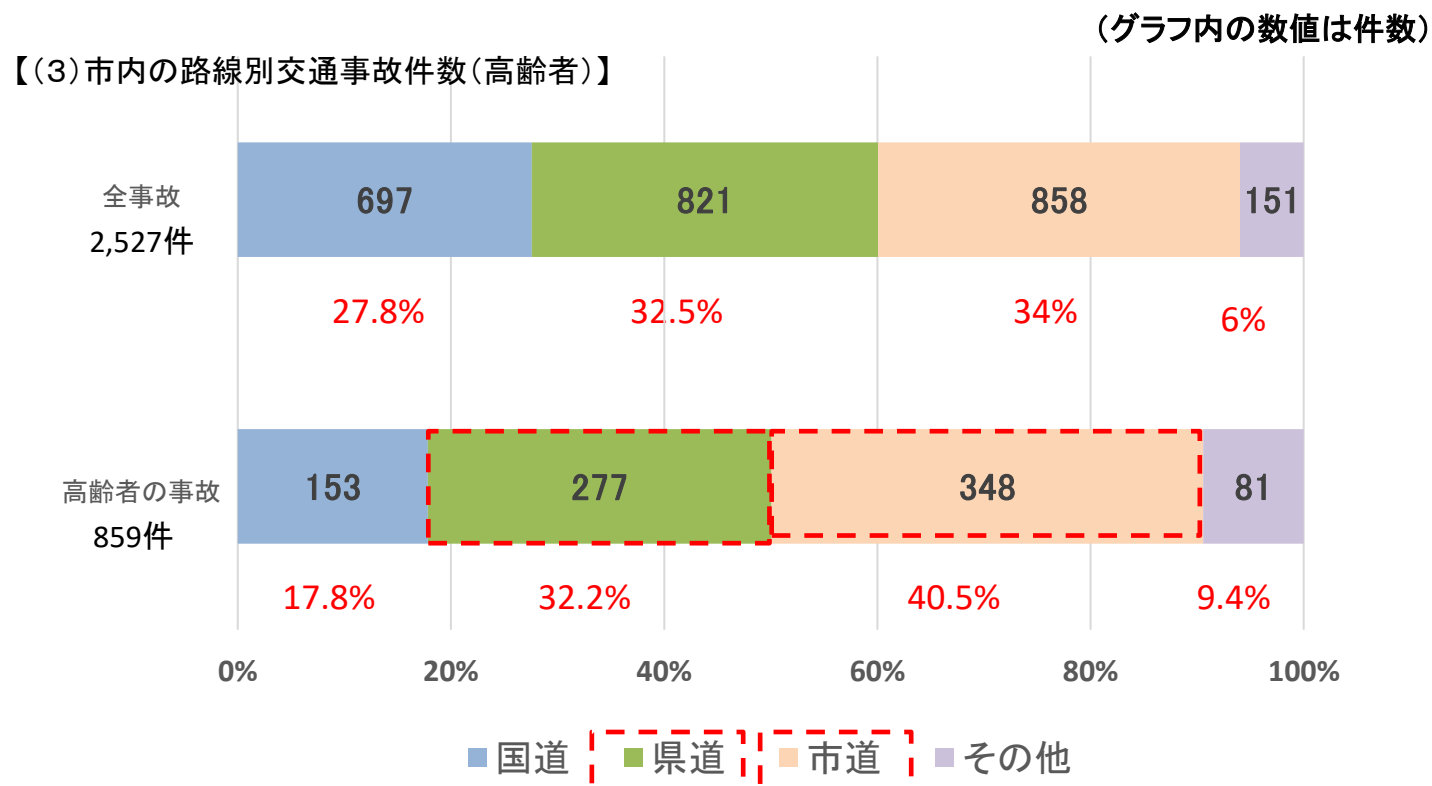
第11次計画期間内

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

① 高齢者および子どもの安全確保

(3) 高齢者の路線別交通事故件数

高齢者の事故は、全体の1/3を占めており、**7割が市道、県道**において発生している。



※ 令和3年から令和6年の件数

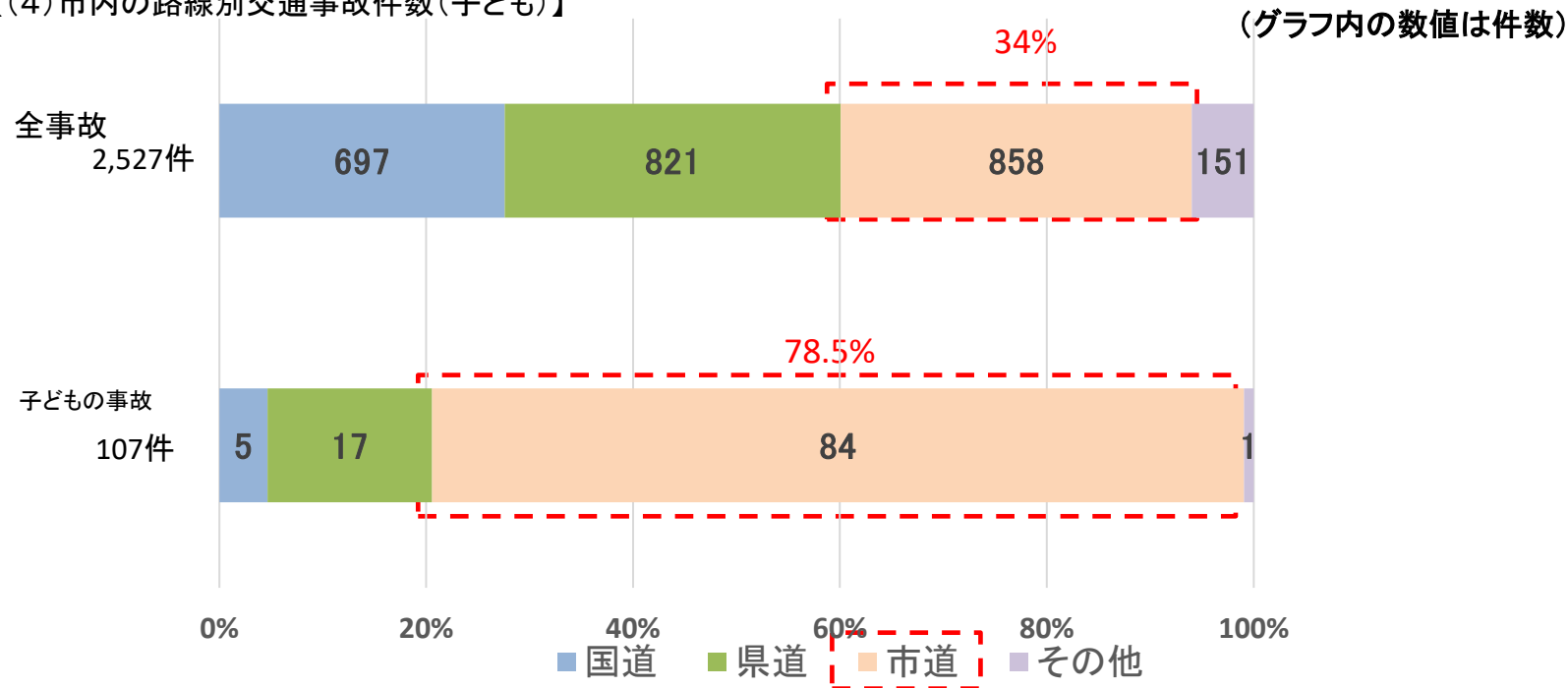
4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

① 高齢者および子どもの安全確保

(4) 子どもの路線別交通事故件数

市道（生活道路が中心）において発生した事故の割合は、全事故の34%に対して子どもの事故は約78.5%と非常に割合が高い。

【(4)市内の路線別交通事故件数(子ども)】



※ 令和3年から令和6年の件数

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

① 高齢者および子どもの安全確保

【高齢者】

事故件数は、令和4年を底に、令和5年から増加に転じており、死者数は減少しているが、重傷者数は、令和4年より6人増加している。

市道、県道での事故が多くを占めている。社会全般に高齢化が進む中、事故件数等が再増加する懸念がある。

【子ども】

事故件数は増加傾向（特に令和6年）、死者数はゼロ、重傷者数は令和4年より2人増加している。特に、市道（生活道路）での事故件数が多い。

行政、学校、警察、地域が一体となった通学路安全点検、交通安全教育等による啓発活動をはじめとした取組の充実を図る。

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

② 歩行者および自転車の安全確保

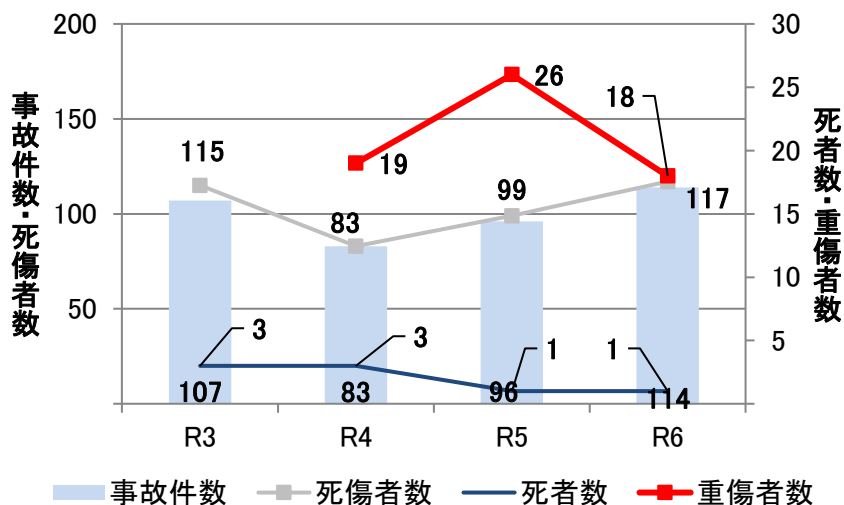
(1) 歩行者の事故の推移

事故件数は、令和4年を底に、令和5年より増加、死者数は減少。
重傷者数は、令和5年に急増したが、令和6年については、減少している。

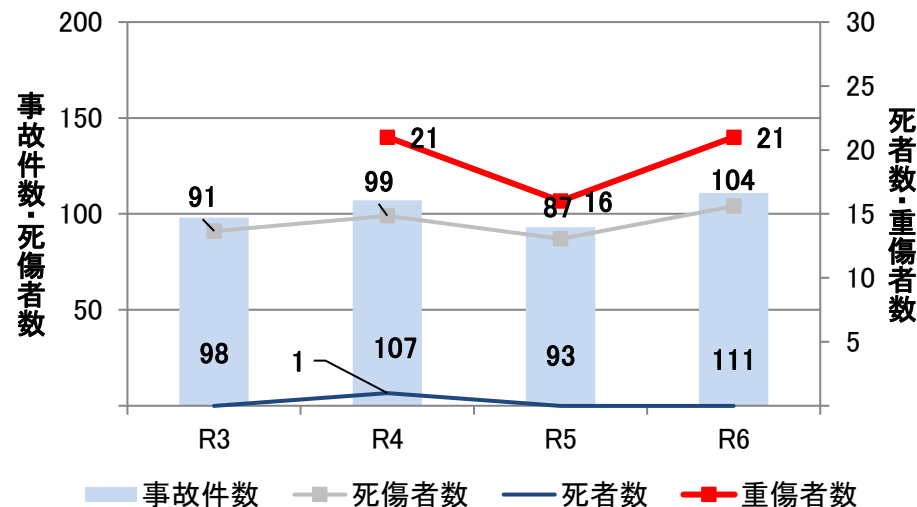
(2) 自転車の事故の推移

事故件数、重傷者数は、令和5年に減少も令和6年に増加、死傷者数は、令和6年104人と増加している。

【(1)歩行者の事故の推移】



【(2)自転車の事故の推移】



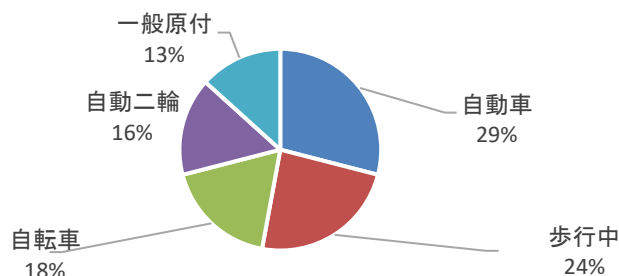
※ 重傷者数は、令和4年からのデータとなります。

4 第1次大津市交通安全計画期間データ分析

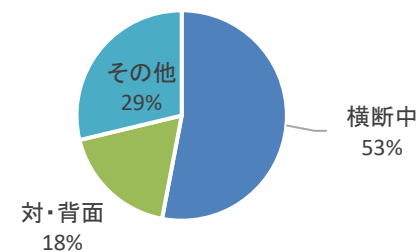
② 歩行者および自転車の安全確保

- (1) 重傷者の状態別割合は、自動車に次いで、歩行中、自転車が多く占める。
- (2) 歩行者事故（対車両）においては、横断中の事故が半数以上を占める。
- (3) 自転車事故（対人）は対・背面事故が半数以上を占める。
- (4) 自転車事故（対車両）では出会い頭事故が6割を超える。

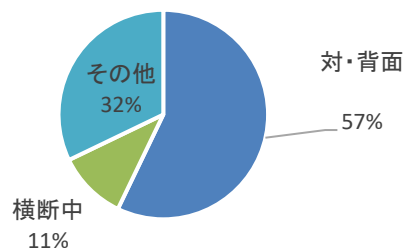
重症者数の状態別割合(%)



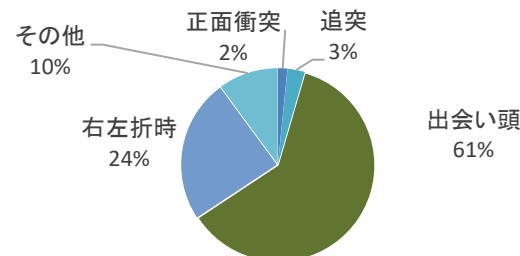
歩行者事故類型別割合(対車両)(%)



自転車事故類型別件数割合(対人)(%)



自転車事故類型別件数割合(対車両)(%)



(グラフ内の数値は令和3年から6年の合計件数を%で示したもの)

※ 重傷者数は、令和4年からのデータとなります。

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

② 歩行者および自転車の安全確保

【歩行者の安全確保】

事故件数は、令和4年に減少したが、令和5年より増加。死者数は減少。

重傷者数は、令和5年に増加。

横断中の事故が多い。

- ・見通しの確保の推進
- ・ 歩道・横断歩道の整備
- ・ 横断歩道の危険性を啓発する等交通安全教育の推進

【自転車の安全確保】

事故件数は、令和5年に一時的に減少も令和6年に増加。

死者数は、令和4年に1人。重傷者数は、令和5年に減少も令和6年は、再び増加。

類型別で対人で対面・背面事故、対車両では出会い頭事故が多い。

- ・見通しの確保の推進
- ・ 交差点での注意喚起や一時停止標示の強化
- ・ 自転車の安全利用に関する啓発（ヘルメット着用・ルール順守教育）
- ・ 通学路・生活道路の安全点検及び環境整備、危険個所の確認

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

③ 生活に密着した身近な道路および交差点における安全確保

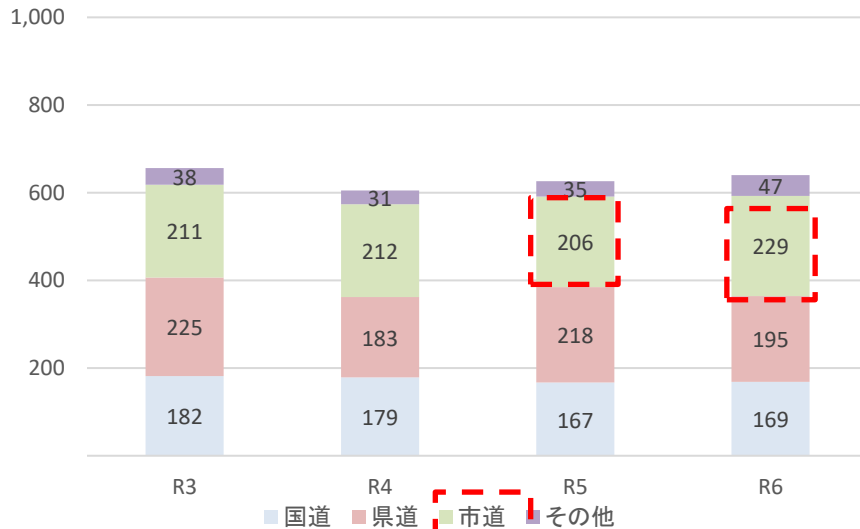
(1) 道路別事故件数の推移

生活道路が中心の市道における事故件数は減少していたが、令和6年に増加に転じている。
一方、国道、県道は減少している。

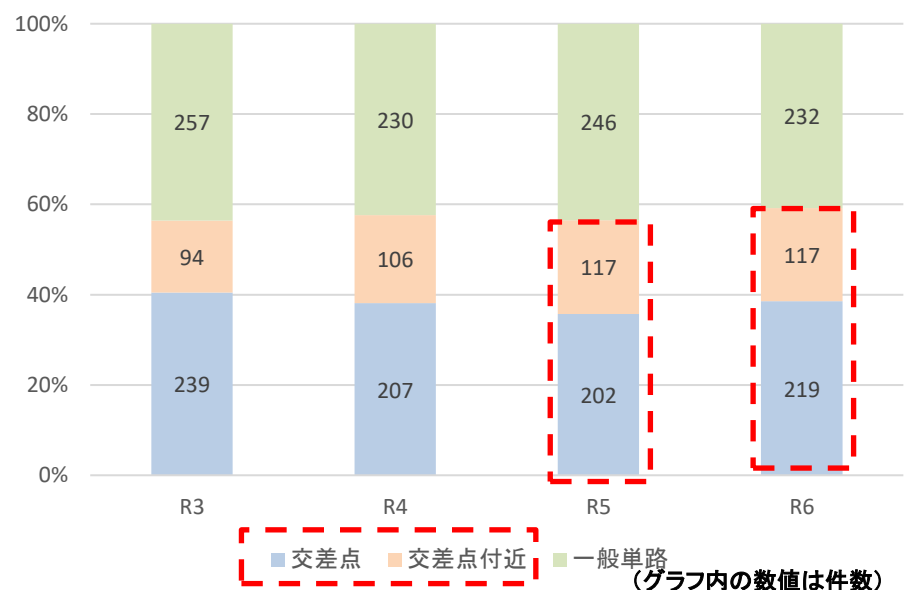
(2) 市内の道路形状別交通事故の推移

交差点および交差点付近での事故の割合は、増加しており、全体の半数以上を占めている。

【(1)道路別事故件数の推移】



【(2)市内の道路形状別交通事故の推移(%)】



4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

③ 生活に密着した身近な道路および交差点における安全確保

【生活に密着した身近な道路】

生活道路が中心の市道における事故件数は減少していたが、令和6年に増加に転じている。

→道路の安全整備（通学路安全点検、見通しの確保、交通安全施設の再点検等）及び交通安全啓発（安全運転の呼びかけ、交通ルールの周知活動等）の充実

【交差点における安全確保】

交差点および交差点付近での事故は、全体の半数以上を占め、わずかではあるが、割合も増加傾向にある。

→交通事故発生個所における重点的な道路改良（信号・標識・舗装等）など環境整備、危険個所の確認を引き続き実施

4 第11次大津市交通安全計画期間データ分析

④ その他

第1当事者の通行目的別の事故件数の推移

- ・業務上の事故は、令和4年に一時減少したが、令和5年より再び増加し、令和6年で令和3年を上回る。
- ・通勤中の事故は継続的に減少。
- ・目的別では、「私用」が最多で、令和6年に増加。

【第1当事者の通行目的別の事故件数の推移】

※ 第1当事者：事故における過失の割合の重い者

